

営農ウィークリーNEWS

2021年産米の農産物検査を開始しました！！

9月15日(水)、2021年度産米で管内初となる農産物検査(契約外米)を大原支店前で実施しました。検査を行った品種は、早生品種の「コシヒカリ」「キヌヒカリ」で、今年の8月は昨年と比べて気温の低い日が多かったため、高温による影響はほぼ見られませんでした。しかし刈取り時期が早いなど、「青未熟粒」が見られました。

農産物検査の様子



1等のコシヒカリのサンプル写真↓



◆検査結果◆

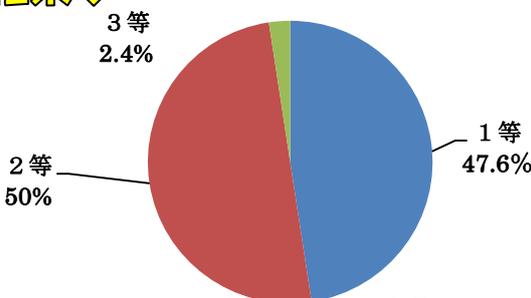
検査数量 124 袋 / 30kg

1等: 59 袋 (47.6%)

2等: 62 袋 (50%)

3等: 3 袋 (2.4%)

等級比率



※2021年9月15日現在の結果

カメムシ被害にあった斑点米の写真↓



格付けを下げた主な理由は、低温・日照不足等による未熟(充実の不十分)な粒で粒表面に葉緑素が残り、緑色をした青未熟や、カメムシ類の被害による斑点米の混入によるものでした。今年も斑点米カメムシ類の発生が多く見られます。圃場内のカメムシ類の発生状況を確認し、防除することが大切です。

また、今年は8月後半から秋晴れが続き、夜は涼しく昼夜の寒暖差が大きかったため、米にとっては良い環境で成熟することができたのではないかと考えられます。

—TAC information—

2021年産米の刈取時期について

9月最高・最低気温

平成22年(2021)・令和2年(2020)・令和3年(2021) ※気象庁データより



8月に続き、9月の気温についても、昨年と比較すると低く推移しています。昼夜の寒暖差も大きく、お米が登熟するにあたっては、よい環境ではないかと考えますが、昨年と同時期の刈取では、少し早い可能性があります。収穫期については、1穂の85~90%程度が黄変したした頃ですので、圃場をしっかりと確認してください。

※参考…8月25日~9月20日までの積算温度、約700度。刈取適期は約1,000度)

※平成22年は、高温障害により1等比率が非常に低下した年

「産米紙袋」の荷造り方法及び手順



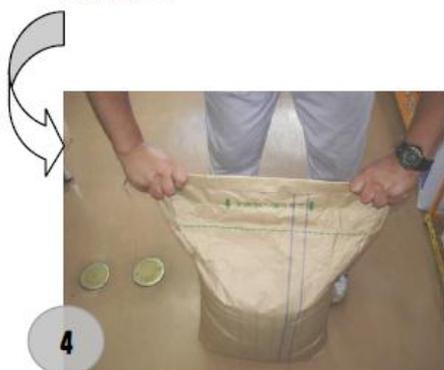
1
米を袋に詰めたら「京都米」の印刷面を手前にして袋の両端をもつ。



2
袋の中の空気を抜いて「京都米」の印刷面の反対側に折り込む。



3
手前（「京都米」の印刷面）から前に向かって押さえながら袋の口を折り目に沿って前に1回折り込む。



4
続けてもう1回折り込む。（2回目）



5
更にもう1回折り、3回目の折り目が袋に引かれている緑色の横線に合うように折り込む。



6
面端を平らにして、緑色の縦線にあわせて両端をしっかりと折り込む。



7
余分がないよう口ひもをからませる。

注※ 余分があると破裂する恐れがあります。



8
ひもの根元で「真結び」にする。「たて結び」にならないように注意する。



9
荷造り後、一旦袋を倒して中心部分を軽く鎮圧する。出来上がり。